

2017年8月18日号で、バングラデシュ・チッタゴン港のターミナルの新設計画についてお伝えしましたが、今号では、バングラデシュ国内物流の現状と今後の展開についてお伝えいたします。

1. バングラデシュ国内物流の現状

バングラデシュの首都ダッカと主要港チッタゴン港の間の距離は約242kmで、この区間の輸送には、トラックが最も多く使用されています。トラックで輸送した場合の所要時間は凡そ10～16時間で、運賃は1コンテナ当たり\$200～\$300です。同じ区間を鉄道で輸送した場合の所要時間は10.5～12時間で、運賃は1コンテナ当たり\$150～\$260と、トラック輸送よりも早く安く輸送することが出来ます。また、安全性や燃費も鉄道輸送の方が優れていることから、バングラデシュ国内の鉄道輸送量が年々増加しています。



バングラディッシュ・クルナのトラック (写真:アフロ)

しかし、バングラデシュ鉄道は現在450台しか貨物列車を所有していません。また、多くの列車は30年以上使用され、老朽化が進んでいるにもかかわらず、整備をするための施設が十分に整っていないため、他の国に比べると、まだまだトラック輸送に頼っています。

トラック輸送においても、トラックの接続や貨物の集配に使用する輸送基地(インランドデポ)がダッカの中心部にあるため、日中は市内の混雑の影響を受けることから、主に夜間しか使用できないという問題があります。

2. バングラデシュ国内物流の今後

バングラデシュ政府は、2020年までに貨物輸送のマーケットシェアを15%増やすことを目標としています。また、物流インフラの整備を進めて、ブータンやインド、ネパール等の隣接国との交流を活性化することを望んでいます。そのため、バングラデシュ鉄道は、1,000台の貨物列車を追加購入することを決定し、鉄道輸送を促進する方針を固めました。その他、トラック輸送の利便性向上のため、インランドデポを新たに3つ建設する計画を進めています。インランドデポの建設予定地は、バングラデシュの主要産業である縫製工場が立ち並ぶガジプール県のトンギ地区とプバイル地区、その他に、チッタゴン地区を予定しています。

今後鉄道輸送、トラック輸送双方の取り組みを進めることにより、バングラデシュ国内の物流事情が大幅に改善されることが期待されています。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html